令和５年度　西毛地区小学校体育科授業研究会　レポート

期日：令和５年 10 月 31 日（水）
会場：安中市立原市小学校
単元名：サッカー
指導者：湯浅　勇樹　教諭

今年度の西毛地区授業研究会では、安中市立原市小学校の湯浅勇樹先生が授業を提供してくださいました。今回取り上げてくださった授業は、３年生の「ゴール型ゲーム」のサッカーです。主体的・対話的で深い学びを実現するための工夫がたくさんありました。

児童は、体育館に入ってくるとすぐにチームごとに分かれて準備運動を始めました。
準備運動が終わったチームは、自分たちでドリルゲームを始めました。ドリルゲームは全員が動くような活動になっており、運動量が確保されていました。また、先生は各チームを回りながら前時までの学習を意識して動けるよう声を掛けていました。

前時の児童の動きを録画した動画を見せることで、児童が課題意識をもつことができ、「パスをつなぐためにボールを持っていないときにどうやって動けばいいだろう。」というめあてを立てました。
また、次に行うタスクゲームでの動きのポイントに気付けるように、ボールを持たないときの準備や動きについて問いかけていました。

タスクゲームでは、味方同士でパスがつながるように、前時で学んだことやめあてを立てた後に考えたこと（ボールを持っていないときに受けやすいところに移動する）を意識しながら、守りなしの練習に取り組みました。黄色のテープを貼って一人一人の運動スペースを決めることで、児童はその中での動きを考えながら動いていました。

ゲームに参加していない児童は、仲間の動きを見てアドバイスや励ましの声を掛けたり、得点係を務めたり、ボール出しをしたりし、全員に役割があるようになっていました。

５回パスをつないだらシュートします。シュートすると役割をローテンションするので、ゲームに参加する児童の入れ替わりが速く、児童全員の運動量が確保されていました。

シュートすると１点、ゴールが決まると２点入るというルールでした。シュートを打てば必ず得点が入るので、児童が前向きに取り組んでいました。

ゲームが終わると、児童はすぐに集まって話合いをしていました。児童が自分たちの課題を解決できるようにするために、先生はゲーム中に撮っていた動画を見せていました。ゲーム→話合い→ゲームの繰り返しにより、児童の技能が向上していました。

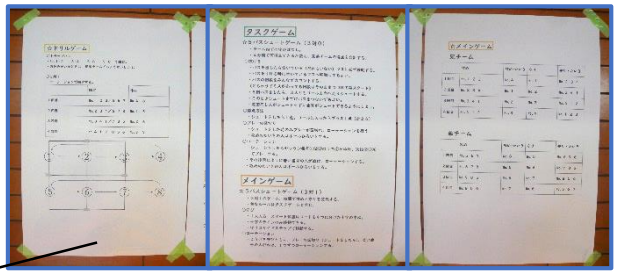
タスクゲームでのよかった動きをメインゲーム（守りあり）に生かすことができるようにするために、全体で話し合う場面を設定していました。

また、ホワイトボード上のコート図で動きを視覚化し、児童がどのように動いたらよいか理解できるようにしていました。

シュートが決まらなかったりパスが上手くつながらなかったりしたときに、ゲームに参加していない児童が「ドンマイ」、「もっと〇〇するといいよ」と励ます声掛けをしていました。

ボールをもらえる位置を考えて、自分のスペースの中でも移動する児童が増えていました。

チームごとに本時の学びを振り返り、全体で共有しました。



各ゲームの進め方を掲示することで、学び方の理解につながっていました。

◎まとめ

体育授業プログラムを活用することで、児童が授業の流れを理解して主体的に動いており、運動量が確保されていました。また、ゲームと話合いをテンポよく繰り返すことで、児童がよく考え、考えたことを実践し、思考を深めるとともに、技能を向上させていました。

授業を提供してくださった湯浅勇樹先生、会場を提供してくださった安中市立原市小学校の先生方をはじめ、研究会開催にご尽力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

（文責：富岡市立小野小学校　堀口寛人）